

水稲用殺虫・殺菌剤

いもち病、紋枯病、稲害虫をまとめて防除

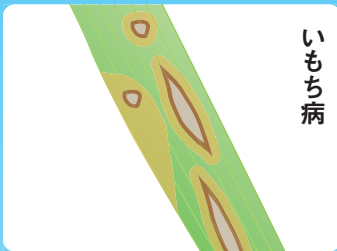
自然に学び自然を守る



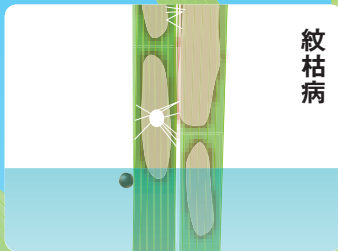
フルサポート®箱粒剤

幅広い病害虫を、まとめて予防。 箱処理1回で、フルにサポート。

病害

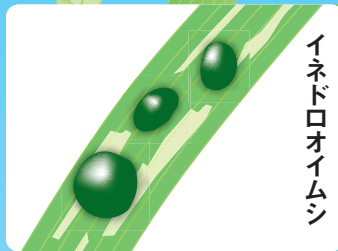


いもち病

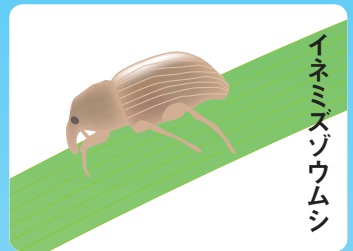


紋枯病

初期害虫

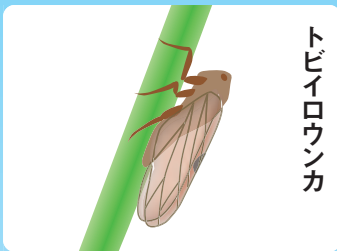


イネドロオイムシ

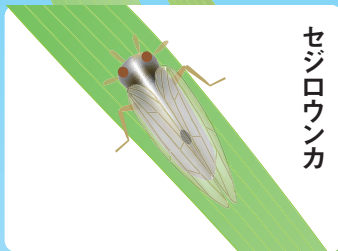


イネミズゾウムシ

カメムシ目害虫

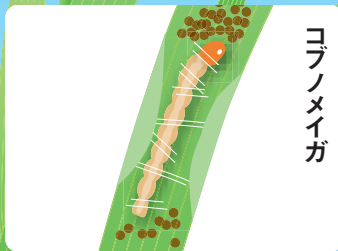


トビイロウンカ

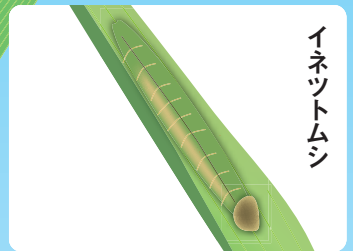


セジロウンカ

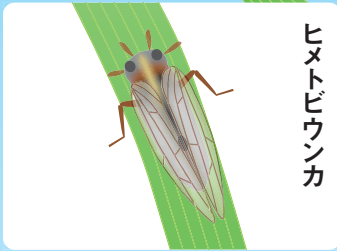
チョウ目害虫



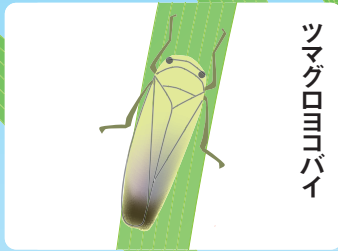
コブノメイガ



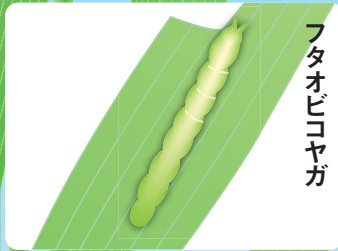
イネツトムシ



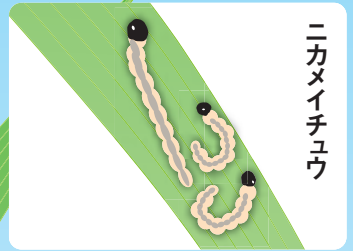
ヒメトビウンカ



ツマグロヨコバイ



フタオビコヤガ



ニカメイチュウ

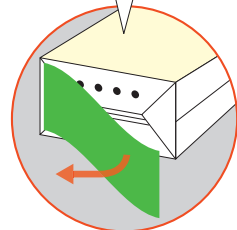
フルサポートの 散布目安

1箱当り50g

計量して散布する場合は、専用の散布容器をご使用ください。



袋の底のシールをはがして、そのまま手軽に散布できます。



®: ザ・ダウ・ケミカル・カンパニーまたはその関連会社商標
フルサポート®はクミアイ化学工業株式会社の登録商標



Dow AgroSciences

Solutions for the Growing World

●特長

1 水稲で発生する主要病害虫を育苗箱への処理だけで予防的に防除することができ省力化に役立ちます。

2 それぞれの対象病害虫に優れた残効性を有する成分が配合されているため、田植え後も長期間にわたり優れた効果が持続します。

有効成分	製品名	効果のある病害虫の種類
トリシクラゾール	ビーム™	いもち病
チフルザミド	グレータム®	紋枯病
イミダクロプリド	アドマイヤー®	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、イネドロオイムシ、イネミスゾウムシ
スピノサド※	スピノエース™	ニカメイチュウ、コブノメイガ、イネツトムシ、フタオビコヤガ

※有効成分のスピノサドは、有機JAS規格の基準に合致する資材として追加されていますので、有機栽培に使用することができますが、スピノサドを含む複数の有効成分を持った製品は、有機農産物には使用できません。しかし、特別栽培農産物の使用回数にカウントされない農業に定められている場合が多いので、地方自治体など関係機関にご確認のうえご使用ください。

TM: ザ・ダウ・ケミカル・カンパニーまたはその関連会社商標
 アドマイヤー®はドイツ・バイエル社あるいはバイエル クロップサイエンスの登録商標です。
 グレータム®は日産化学工業株式会社の登録商標です。

●適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用回数	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ コブノメイガ イネツトムシ イネドロオイムシ イネミスゾウムシ フタオビコヤガ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植2日前～当日	本剤 1回 ・イミダクロプリド 3回以内 (移植時までの処理は1回以内、 本田での散布は2回以内) ・スピノサド 1回 ・チフルザミド 1回 ・トリシクラゾール 4回以内 (育苗箱への処理は1回以内、 本田では3回以内)	育苗箱の 苗の上から 均一に散布する

⚠ 使用上の注意事項

- 軟弱徒長苗、老化苗などでは薬害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
- 稲苗葉がぬれていると薬害を生じやすいので、散布直前の灌水はしないでください。
- 時に葉の黄化や葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守してください。
- 移植後、低温が続く苗の活着遅延が予想される場合、あるいは移植後極端な高温(30℃以上)が続くと予測される場合は薬害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
- 深植では薬害を生じやすいので深植にならないように注意してください。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟堆肥多用田の場合は使用をさけてください。
- 処理苗を移植する水田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので代かきはしていないに行ない、移植後田面が露出したりしないよう注意してください。移植後直ちに入水し、水深2～3cm程度に保ってください。極

- 端な浅水や深水は薬害の原因となるのでさけてください。
- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないでください。

⚠ 安全使用上の注意事項

- 誤食などのないように注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けてください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 作業の際には農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。また粉末を吸い込んだりしないように注意し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- かぶれやすい体質の人は、取り扱いに十分注意してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
 ●空袋は圃場等に放置せず、適切に処理してください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

◎本資料は2013年5月現在の知見に基づき作成されています。